



大阪市生野区において  
学校法人による学びの活動を通じて、  
多文化・多世代の地域の皆さまと  
将来の担い手を育む「学び」の拠点を創る。



「人生100年時代」、「超スマート社会(Society5.0)」に向けて、社会が大きな転換点を迎えています。全国的に、生涯学習の重要性は一層高まり、リカレント(学び直し)教育の推進は、文部科学省でも毎年求められている施策の一つです。※1  
私たちは、生徒に対する学びだけではなく、地域の皆さまと共に学生が「学び」合える場所づくりを実現し、皆で「学び」、皆で支え合うことのできる地域づくりを担う「学び」の拠点を創ります。

※1:「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」や「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」、ポータルサイト「マナビス」の整備など

# 事業コンセプト

## 「今まで」の思いを引継ぎ、新たな「学び」・体制による地域の居場所づくり

○地域住民が「私たちの学校」と感じている歴史と愛着ある「生野南小学校」の面影を可能な限り引き継ぐ

建物の用途を変えず、「学校」用途として、引き続き運用することで、建物の外観や内観だけでなく、今までのコミュニティの場としての機能、役割、使い方を可能な限り継承し、地域の皆さまと共有します。



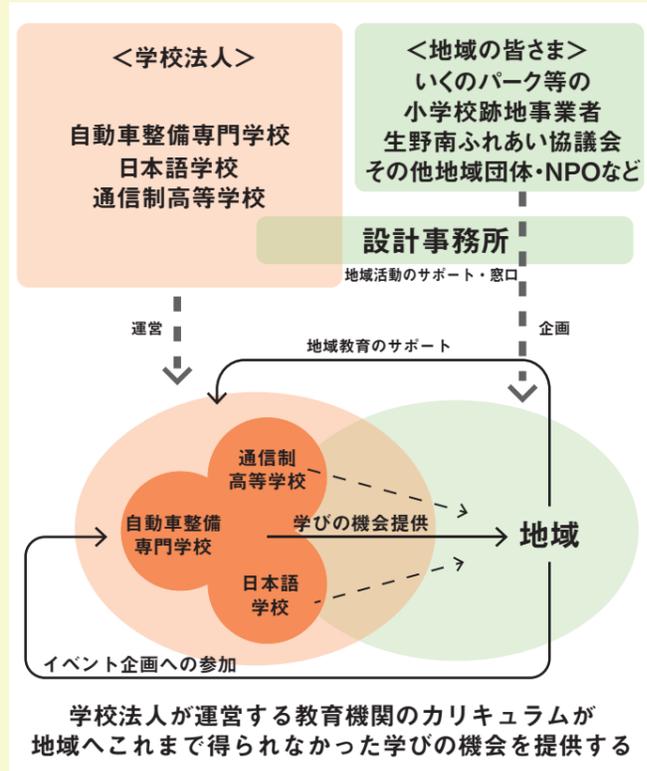
旧生野南小学校

○歴史ある学校法人による「学び」と設計事務所や地域住民と共につくる「居場所」づくり

学校法人としての学校運営だけでなく、空きスペースは積極的に「地域開放スペース」として利用します。そこでの活動内容や運営は、設計事務所が補助事業者として運営協力を行いながら、生野南ふれあい協議会等の地域団体やNPO 法人と円滑に連携を取り、地域の皆さまや学生にとっての「生涯学習・リカレント教育」としての新たな「学び」の場を皆さまと共に築いていきます。

学校法人の提供する専門的な学びを地域住民と共有し地域ぐるみの「学び直し」を実現する

学校法人が旧生野南小学校で運営する教育機関のオープンキャンパスなどを、地域の皆さまも楽しめるイベントにします。学校の紹介だけでなく、地域のものづくり企業と連携した企画や各教育機関の特色を生かした催し物を行うことで、普段は体験できないような体験を地域の皆さまに提供します。また、地元で活動している生野南ふれあい協議会等の地域団体や他の小学校跡地を活用する事業者と連携を取ることで「まちぐるみ教育」の一環とし「みんなの学校」を実現させるきっかけとなります。



「みんなの学校」の考え方  
大阪市生野区『まちぐるみ教育』で地域の多様性を活用するイメージ』より

# コンセプト

生涯学習・学び直しは、生涯にわたって行うべき活動と言われており、防災訓練や身近な地域の歴史を知ることひとつの学習と言えます。

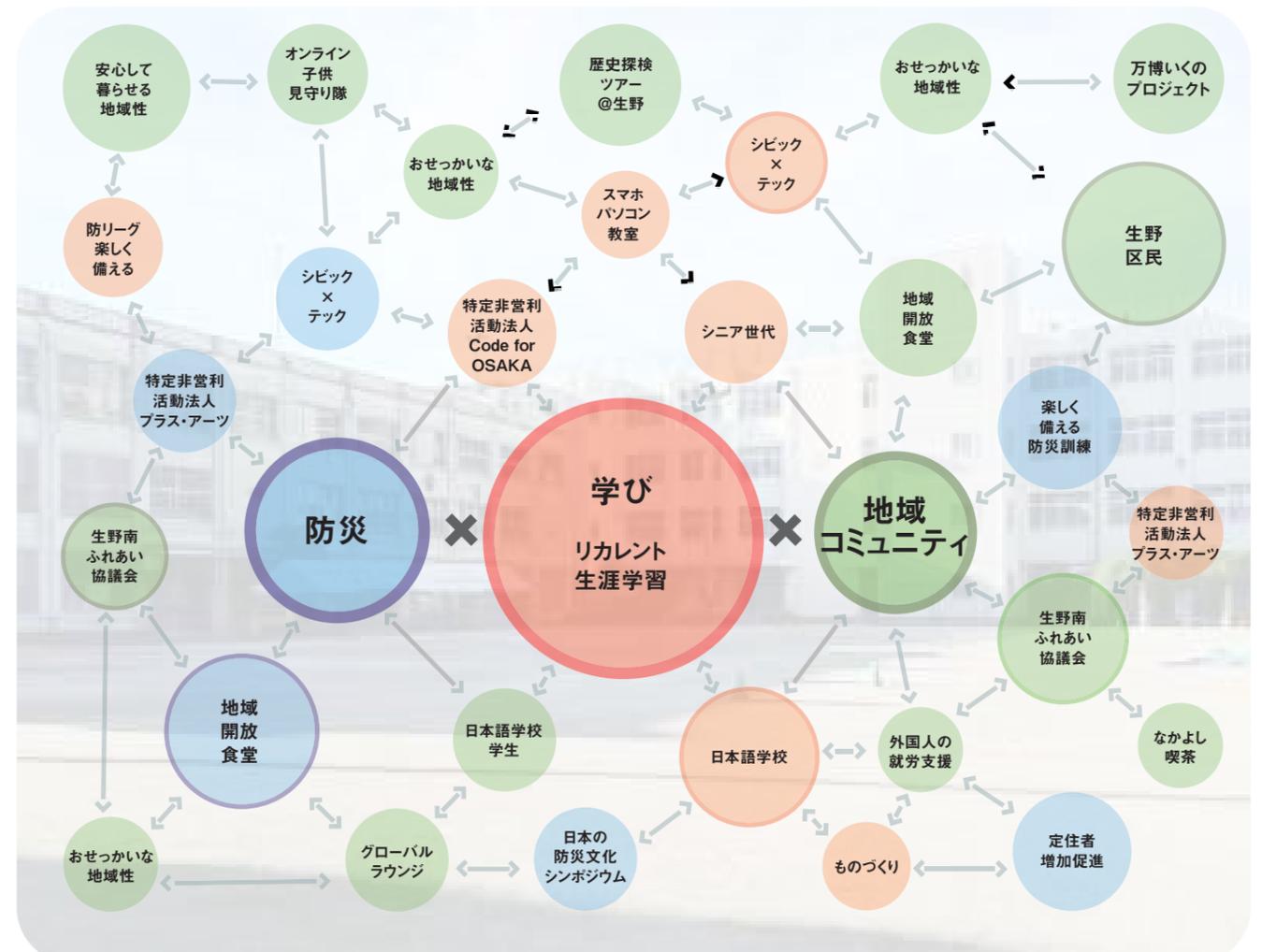
関係者へのヒアリングを通じて、

生野南小学校という「学び」の拠点が廃校になったことにより、地域の皆さまも「自分たちの学校」であるという意識をより強く持ち、今後も「学び」の場であり続けることを望む声が多いことを知りました。

地域の皆さまにとって、そんな場所での地域活動やイベント開催は、今まで以上に思い入れのあるものとなり、そこで学ぶ学生は、専門分野の学習以上に得るものがあると考えています。

この場所は、単に専門知識を学ぶ「場」だけでなく、生野区特有の「おせっかい」な地域性を持つ地域の皆さまと共に学び・教え合う「場」として活用し、企画、運営することで、「まちぐるみ教育・みんなの学校」の一端を担う生野区の学びの拠点施設(いくの・ラーニング・ベース)になると考えています。

それを支える仕組みを、関係業者や生野区、生野南ふれあい協議会、他小学校跡地利用業者や地域NPO団体などと連携を図り、実践していきます。



全体コンセプト図

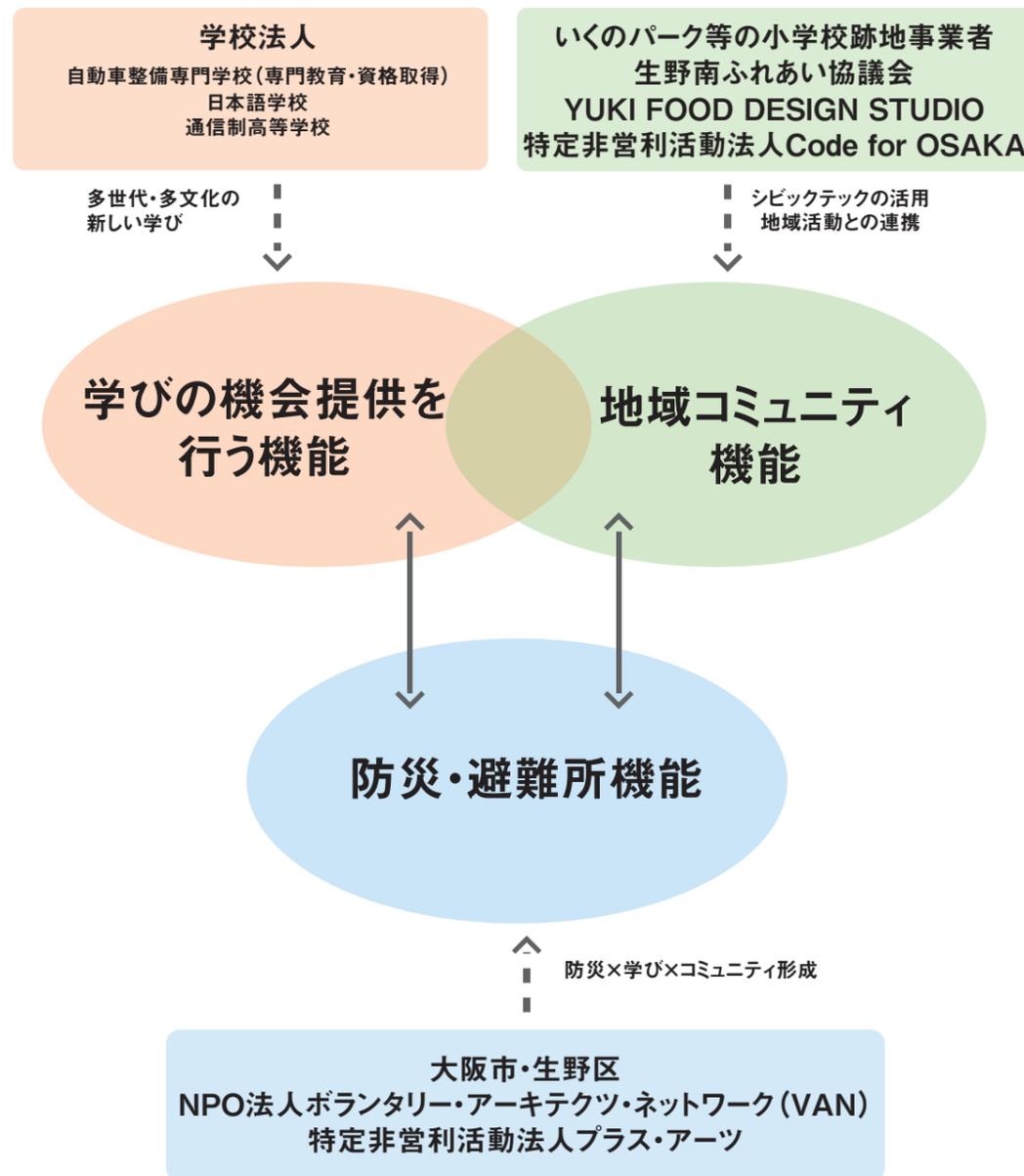
## 学び・防災・地域コミュニティ事業それぞれの関係性

### 「学び」を通じた「地域コミュニティ」形成と地域「防災」活動

生涯学習・リカレントを軸においた「学び」の提供と、地域向け講座の企画運営を行うための「学び」の場の提供事業は、「学び」だけではなく「地域コミュニティ」機能としても影響を及ぼす活動です(防災×地域コミュニティ)。

また、「学び」合うことで、「地域コミュニティ」を育み、お互いを知り、関係性を持つことは、地域防災にも役立ちます。

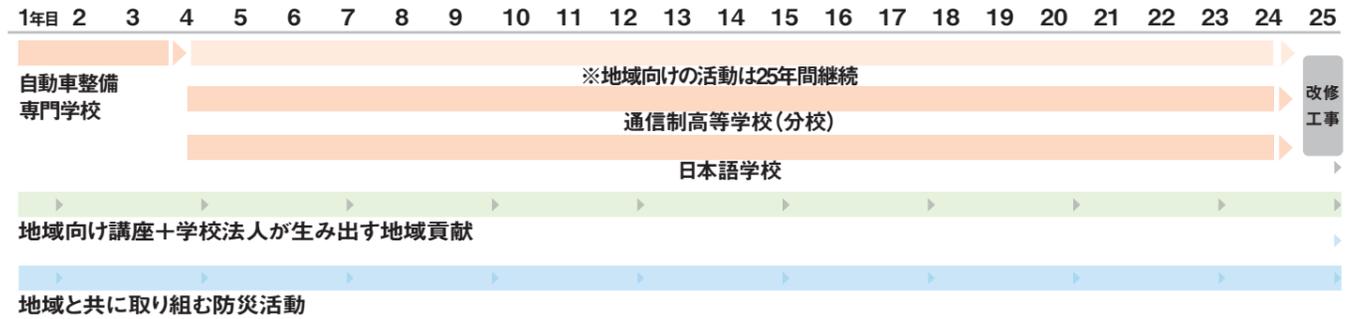
「学び」と「地域コミュニティ」、そして「防災」機能は、生野南小学校が支えていた機能であり、それを継承し、地域の思いをよりよい形として事業運営を行う体制を整え、各団体と連携を取りながら、実践していきます。



## 事業効果

### 「学び」を軸とした事業継続性と新たな関係性を生み出す事業展開

〈事業年表〉



### 25年間の事業計画(事業の見通し)

○学校の認可取得について

学校教育法第1条に該当する「通信制高等学校」の分校及び各種学校である「日本語学校」は、借地建物でも認可可能であるため、現実的に事業として成り立つ計画としています。  
※学校教育法第1条に該当しない「専門学校」は、借地建物での認可取得は不可(仮校舎としての利用は可能)

○事業の見通しについて

専門学校(定員210人)・通信制高等学校(定員360人)・日本語学校(定員100人)の事業において、他地域で蓄積してきたこれまでのノウハウや実績、知識や技術を活かし、生野区以外の他地域からの入校者もターゲットに想定定員数の生徒の確保を目指します。

(1年目~3年目の3年間)

事業開始初年度~3年間は、他地域での専門学校の仮校舎として運営し、事業として安定させ、その期間に、「通信制高等学校分校や日本語学校」開設に向けて、教育庁や入国管理局の許可(文部科学省の面談対応含め)取得を進め、生野区での多文化共生を図るための事業開業に向けて準備を進めます。

(4年目~24年目の21年間)

4年目以降から、通信制高等学校分校や日本語学校の事業をスタートします。日本語学校は、定員100人に対して、初めの5年間は60人程度の生徒を想定し、その後定員100人を目指し、段階的に事業を拡大していきます。一部地域開放スペースでの地域団体等と連携を取った活動や地域開放食堂の運営を行うことで、大阪市及び生野区、地域の皆さまと連携を取るための基盤づくりと運営体制の構築に努めます。また、シェアオフィスやSOHOとしてデザイン事務所や地域で活躍する会社に貸し出せるスペースを提供します。

(25年目の1年間)

25年目は、施設の改修等の期間に当てるため、学校としての事業は行わず、地域開放スペースの運営のみ実施します。

### 周辺環境への配慮

旧生野南小学校の形態・意匠は可能な限り継承することで、地域の皆さまにとって今までと変わらない景観を維持・保存します。

「自分たちの学校」であるという地域の皆さまの思いを尊重するため、可能な限り、今までの面影を残した計画とします。

今までの用途と変わらない「学校」用途として、事業を行い、通学は公共交通機関の利用をベースとし運営することで、周辺交通環境への影響も少なく、今までと変わらない環境となるよう配慮します。

# 事業計画概要図

## 防災・避難所機能

### 防災・避難計画

- 災害時の施設開放計画について
- 災害時の解錠・施錠に関して
- 災害時に避難所になる室の備品移動方法を記載した設営マニュアルの制作
- 風水害等による災害に対する災害マニュアル
- 突発的な災害に対する災害マニュアル

### 防災・避難についての考え方

- 防災×学び
- 防災グッズ等の備蓄

### 地域・生野区と連携した防災活動

- 防災×地域コミュニティ
- 生野区、運営者、地域の皆さまの3者が連携を図った避難訓練の定期開催の実現



### 避難所の計画について

- VANと連携した防災に関する取り組み
- ジェンダーに配慮した避難所運営に関する講習と計画の提案

### 発災時における地域開放食堂の活用について

- 発災時に地域開放食堂を開放



### 自動車整備専門学校の避難所として開放可能な室について

- 一階実習室も災害時に地域に開放することが可能な計画

### 外国人に関する防災

- 外国人の存在を前提とした災害対策の標準化
- 外国人向けの避難訓練等の実施
- 日本の防災文化を知る機会の提供



### シビックテックを活用した防災について

- ITを活用した防災
- 楽しみながら災害に備える

## 地域コミュニティ機能

### 通信制高等学校（分校）の教育課程における地域活動

- 地域で活動する方々をサポートするカリキュラム
- 通信制高等学校の休日を活用した地域サロンの開催
- 校庭の一部を地域の皆さまと共同で運営する菜園



### 日本語学校を通じた多言語・多文化社会への取り組み



### 専門学校による専門技術の学びを地域の皆さまと共有する



### 講堂を活用した地域貢献

### 地域の魅力発信の取組み

- 地域メディアを通じた内外の情報発信
- シンポジウム及びセミナーの実施
- セキュリティ対応について

### 生野区の地元企業との関係性を築く

- 学校法人が培ってきた就労支援・自立支援事業のノウハウを生かして外国人留学生や若者の生野区内への就職をサポート

### 他の小学校跡地活用計画との連携

### 地域コミュニティとシビックテック活動

- 「シビックテック」というITを活用した新たな「学び」と地域コミュニティ形成方法
- Code for OSAKAとの協力関係

### 地域開放食堂を活用したコミュニティづくり

- 生野区にある飲食店と提携し生野区グルメを楽しめる地域に開かれたテイクアウト専門の食堂
- 学校の食堂(テイクアウト)を地域に開放し、地域の皆さまと学生の双方が利用可能な拠点の形成



### 生野区ならではの企画運営

- 企画例1~4

## 学びの機会提供を行う機能

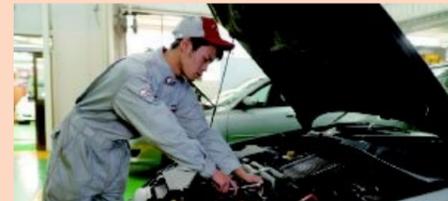
### 学びの機会提供について

- 学校法人による様々な「学び」の提供
- 旧生野南小学校跡地を活用する意義
- 日本語学校を旧生野南小学校で運営する意義
- 地域団体や各種協力業者との連携による「学び」の提供

### 学校法人が運営する多様な「学び」の教育事業

### 自動車整備専門学校の専門性のある学びの提供

- 専門知識を身につけ、社会に直結する学び



### 多文化・多世代に向けた生野区特有の学びである日本語学校の運営

- 生野区全体の「語学」学校の拠点



### 多様な学びを提供出来る通信制高等学校(分校)の運営

- 地域の皆さまと関わることで得る社会と直結した実践的な学び



### 地域住民向け講座

- 地域の皆さまを対象とした実践的なスキルを身につける講座を学校法人が持つノウハウと掛け合わせて開設
- ワールドラウンジを開設
- シニア向けスマートフォン教室・初心者向けパソコン教室の開催



### 支援事業との連携

- 誰も取り残さない学びの機会の提供

### 他の小学校跡地活用計画との連携

- 連携例: 飲食人大学と連携し、食のシンポジウムを行う